



The Gallery

第55号

2013(平成25)年1月19日(土)

発行 相模原市議会をよくする会

(設立1999年)

12月定例会版

遠距離視察はなぜ止まない 全議員が1泊2日で親睦にも

■行先の決め方や視察の意義は？

今の世の中、世界中の情報がインターネットで詳しく知ることができる時代、この程度の目的のために、なぜ全員で遠くの自治体まで出掛けるのか理解できない市民は多い。市議会事務局がその疑問に答えた。

行き先は各委員会の委員が視察テーマを出し、事務局がそれに適した候補地を探し、委員会が内定、先方の受け入れ態勢と日程調整を行なっている。委員全員が参加するのは、各会派の代表者が構成する委員会の性格上、止むを得ない。

新幹線や航空網の充実した今日、日帰り視察は充分出来るのに、敢えて1泊2日の旅程を組むのは視察地での合同夕食会等による懇親で、日頃できない会派を超えた委員間の相互理解に資するということかも知れない。しかし財政難を抱える相模原市の現状を考慮、議員が税金の節約をしようという姿勢が見えないことに疑問を抱く。

■全国から視察の相模原の目玉は何？

市議会事務局によると、平成24年度中に相模原を視察に来た団体は32。内訳は委員会視察が9、会派による視察は20、その他議長単独1、全議員視察2があった。

視察された対象は：

- 第1位【公契約条例】(来庁した議会=富山市、仙台市、釧路市、札幌市、京都市、豊橋市、鈴鹿市、堺市、盛岡市、大阪府、金沢市、川崎市、市川市、東京都北区)
- 第2位【施設訪問】(博物館=札幌市、衛生試験所=町田市、杜のホール=大和市、ふれあい科学館=広島市)
- 第3位【中学校給食】(枚方市、東大阪市、横須賀市)
- 第4位【生活保護・支援】(大阪市、福岡市、京都市)
- 第5位【住宅リフォーム助成】(市川市、熊本市)
- 第6位【シティ・セールス】(鈴鹿市、堺市)
- 第7位【その他1件付】債権管理条例(長岡) 森林ビジョン(佐賀) 住居不明児対策(広島) 危機管理室(うるま) 既存宅地制度(小田原) 企業誘致(西宮) 公共施設白書(延岡) 都市整備課(吉川) ホームタウン認定制度(刈谷)

■平成24年度・本市委員会視察実施一覧

委員会名	視察地	視察事項
総務 民生	佐賀県・佐賀市 新発田市 新潟県	電子自治体の構築 いのちを守る条例 同支援センター
環境経済	新潟県 堺市	太陽光発電所 集客・回遊性向上
建設	神戸市 八代市	橋梁長寿修繕計画 中央駅周辺
文教	鹿児島市 熊本市 熊本県	就学前教育 子どもフォーラム
★基地対策	呉市 呉市内基地	基地対策 市内基地の現状
★防災	仙台市	大震災復旧・復興
議会運営	長野県・新潟市	議会改革取組み

★交通問題	市内津久井地域	交通不便地
★水源地域	市内津久井湖	相模川水系外管理事務所、湖岸崩落課題と今後
★大都市制度	総務省	別紙

●解説

- ①交通問題、水源地域、大都市制度の3特別委員会以外は全て1泊2日の日程。日帰りが出来ない場所はほとんどない。
- ②視察時期は全委員会・特別委員会ともに10月3日から25日までのウィークデイ、議会の会期外だった。訪問先の休・祝日避けるのは当然だ。
- ③全視察には議会事務局員一人が随行した。随行員が必要な理由は思いつかない。現地での采配を議員が出来ないとは考えられない。権威主義の現れか、職員の研修も兼ねるのか。
- ④視察報告書は各委員の感想・意見等をもとに、随行事務局員がまとめることになっているが、昨年12月末をメドに完成の予定のはずが、1月15日現在提出した委員会はゼロの状況。
- ⑤意外なことに、相模原を訪問する視察団は現地の施設見学というより、公契約条例というソフトの勉強ということが多い。他の特徴は、委員会視察は全員で、会派組は少人数だ。共通するのはあくまでも「遠距離視察」である。

★本紙名の The Gallery は、欧米では議会などの傍聴席を意味します。

傍聴報告

12月定例会

代表質問・個人質疑

11月28日

(意見と感想)

● 市長の提出議案について、新たな条例や一部改正、24年度補正予算等を中心に6会派から多くの質問が行なわれた。各派によって取り上げた条例は次のようなものだった。多い順に見る。

- 第114号(職員定数) 全6会派
- 第120号(国民健康保健) 民・無、公明、共産みく
- 第146号(地球温暖化) 新ク、民・無、公明みく
- 第149号(下水道事業) 公明、共産、市連、みく
- 第115号(非常特別職報酬) 共産、市連
- 第133号(地方分権一括・児童福祉) 新ク、民・無

- 第152号(公共下水道使用料) 新ク、共産
- 第173号(24年度補正予算) 新ク、市連
- *以下、1会派だけが取り上げた条例には、行政組織(公明)、公共施設保全基金(新ク)、市民税控除対象基金(新ク)、市立保育所設置(民・無)、市保護施設(みく)、都市公園(新ク)等があった。

● 質問トップの折笠峰夫(新ク)は早朝で目覚めが遅かったせいか予習不足だったか、自作の質問原稿が旨く読めなかった。加山市長ほどに流暢(過ぎ?)でなくてもいいから、せめて聴きやすいようにお願いしたい。また、せっかくの機会なのに、2問で終わったのは残念。

● 2番手の大沢洋子(民・無)は、リニア中央新幹線問題で相当突っ込んだ調子で、未だ明らかにしない市独自の経済効果の公表を迫ったうえ、車両基地のロケーションをきいたが、JRの環境調査後の発表を待つとの市の答弁。口を開けばリニアの宣伝をしながら、ホントに市はなにも知らないのか!

● 3番手の大崎秀治(公明)は、質問に先立ち、総選挙での民主党惨敗と自党の善戦をPR、いささか違和感があった。民主党議員はどう聞いたか。ユニークな提言として「文化芸術振興条例」制定を6分間もかけて説いた。芸術活動に冷たいと評される市には必要かも。

● 4番手の藤井克彦(共産)は、神奈川県緊急財政対策で出ている県有施設の処分案は県民サービスの低下であり、大規模自治体への道につながっていくと怒っていた。

● 5番手の小林正明(市連)は、議案についての研究や調査の裏付けを感じさせる質問が多いが、その事は再質問、再々質問で明らかになる。そのため、市長の一括答弁では見えない各幹部の能力が表に出て興味深い。今回は高度処理型浄化槽に関するテーマが面白かった。

● 最後の質問者は大槻研(みく)。今回も歴史に触れる問題で、「日本の原点を考える」のテーマのも

と、「古典の日」制定を提言したり、国旗掲揚の統一基準を公共施設用に、設けよと発言も。また「小さな政府」論を展開した際、市議会の定数削減にも言及した。この議員がどのような市政を目指しているのか知りたい。■

一般質問

12月17・18・19日(意見と感想)

● 森 繁之(民・無)

前日の衆院選での惨敗で地方議員の役割を自覚したように聞けた。高齢者福祉・生活保護では、質問事項の事前調査で具体的な要望をぶつけて欲しかった。熊本視察まで行なった「こども」問題も、会派の政調費で買ったPC活用で調査を究め無駄遣いは避けられた筈だ。単に行政側の方針を聞くだけでなく、具体策で議論してほしい。市民は傍聴と自宅でのネット中継を見て、誰が市民のために活動しているか見ている。

● 溝淵誠之(新ク)

傍聴に来た上溝高生に自らの人生観を披瀝したあと、市立幼稚園・保育園の建設の設計思想について経験から来る持論を展開、北口玄関の位置など市に苦言を呈した。また教育委員会が設置する「人権教育指導室」は本来有ってはいけない、家庭教育こそこども教育の基本、などと教育者としての立場を理解できる質問だった。緑区を県の3大観光地にとの提案は市長の素っ気ない棒読み答弁で、実現への前向き回答とはならなかった。

● 関山由紀江(公明)

冒頭、総選挙について自民大勝、民主へのNOの結果と総括した。この日の質問とは無関係のコメントは唐突だった。見学に来ていた大勢の高校生にはどのように聞こえただろうか。また、妊婦審査の公費負担拡充の質問でも公明党の国会議員の名を挙げて党の宣伝もした。

● 桜井はるな(民・無)

「午前の傍聴高校生が居なくなると寂しいが、禰を締めなおして頑張る」と似つかわしくない比喻で議場に爆笑。現在有骨待機者が多い市営霊園の対策を質問、死亡者が年々増す現状打開に、樹木葬(山林に人工物を置かず埋葬する形態)などを提案した。自身の身内の事情などを踏まえて力説していた。

● 古内 明(新ク)

昭和54年(1979)に公示された「相模原市民憲章」のリニューアルを提議する質問をしたが、この憲章が実現していたら、相模原市は「パラダイス」だろう。時代も地勢も変わったと言っても、憲章の中身は依然として違和感がない。更新の必要はないが、市長・職員、そして議員は改めて眺め、市政の有るべき姿を考え直すことだ。いいきっかけを作った良い質問だと言えよう。

● 金子豊貴男(市連)

米軍基地ウォッチャーとして、基地情報を議会に提供する役割を果たしているが、オスプレイ機の厚木基地拠点化で改めて基地の意義が問われる事態を説明。市渉外部は、騒音や飛行ルールの違

【会派略称】新政クラブ 新ク
日本共産党 共産
民主・新無所属の会 民
市民連合 市連
みんなのクラブ 公明
公明党 公明
みく
無所属 無

反の指摘に「国・米軍当局に抗議した。ルールは遵守していると認識している」などと答弁。市民の指摘以前に市自ら自主的にアクションを取っているのか疑問だ。

● 久保田浩孝（公明）

防災対策の質問から、避難所運営のマニュアルが実際は役立たなかった、一時避難所を市民の半分が知らない、等の恐ろしい実態が分かった。日頃の防災訓練の参加者はコミュニティの人口の数％に止まるなどを考えると、相模原は地震に強い岩盤の上に在るなど、根拠の薄い情報のせいかもしれない。市の適切な広報がまず必要ではないか。

● 宮下奉機（新ク）

津久井湖岸崩落が進行しているなど、市民には知らされていないこと、対策の遅れを鋭く指摘したが必要な費用や期間が議論されずに終わった。市民はそういう事を知って財政への関心が高まる。一方、多くの湖を観光資源とする提言もあったが、まず安心して訪れる所を作るべきではないか。

● 小林倫明（みく）

「特区」を有効な手段という市が、結局は一年間一件も申請しなかったのは自己矛盾だと攻めた。藤野のシュタイナー学園の成功を挙げていた。企業誘致や産業創造も思ったように進まないのは、結局は「人と企業に選ばれるまち」という目標に実質的な政策が伴わないか、他市の目玉政策に劣るかではないのか。議員も競争力のある提案を見せて欲しい。

● 松永千賀子（共産）

上溝高生の傍聴に感激したか、市政の向上を生徒らに誓った。従来の障害児に加え、多動性障害、自閉症などを加えた個人別ニーズに基づく特別支援教育をとりあげた。一人毎に違った教材を使うなどの至難なものだが重要な課題だ。70才以上の高齢者の半数の難聴者への支援も求めた。

● 小野沢耕一（新ク）

津久井広域道に絡む県道513、412号、県道76、510号の早急整備を訴え、農業振興では高齢化・後継者不足から来る耕作放棄地の活用策を促した。市は関係協議会を設置したと言うが、設置が有効な事業を見いだすまでどれほど掛かるのか。

● 関根雅吾郎（民・無）

傍聴席の高校生を見て、今日は皆さんにも分かりやすい質問があると言ったが、いきなり病児保育の預け場所の質問で笑いが。歯切れよい直言が売りの議員だが、職員の勤務・接客態度に苦情。今回の質問でも、市長や担当部長の答弁漏れが幾つもあったが、それも不真面目な勤務態度といえないか。最後に橋本の街づくりについて、大規模開発でなく、味のあるまちを路面店舗推奨に引っかけて訴えた。

● 加藤明德（公明）

母校・東海大の調査などを引き合いに、自殺防止対策を市に質したほか、認知症やアレルギー対策がハード面で進みながらおおくの課題がある点を指摘していた。また来春の相模大野西口再開発オープン後の、駅・再開発地域・グリーンホール伊勢丹の3極を巡る交通渋滞や既存商店街連携支援などの懸念も表明した。

● 沼倉孝太（新ク）

本市の農業従事者の半数が50才以上の実態、伝統ある相原高卒業生の半数近くが進学、市への就職もゼロなどの状況を述べ、市の農業政策を質した。

いじめについての質問で、平成24年の小・中学校合計で319件もあり、実態把握は定期的なアンケートによるとするが、昨今の事件からみても解消は期待できない。

● 竹腰早苗（共産）

質問により市内のホームレス人口は22名とのことだが、一時的保護施設は当分民間とで対応し他市のようにセンターの設置は3年はやらないと市の説明。精神障害者へのバス運賃割引は必要を認め実施する考えと市は説明した。

● 小池義和（民・無）

医療体制の改善策を提言。それには、ポケットカルテ、地域共通診察券、県のマイカルテ構想、小児慢性特定疾患医療費助成、病児保育、それに医療ではないが、福祉バイオトイレカーなども含まれた。しかし、市はどれに対しても期待に十分応えるような答弁はしていなかった。

● 五十嵐千代（無）

介護は予防事業で軽減できるとの考え方からか官・民・学の連携で、縦割りを克服する形でのユニヴァーサル・デザインの推進を改めて訴えた。公会計制度についても取り上げたが、事の複雑さと早口質問で質疑ともよく理解できなかった。国際教育の重要性は外国語からと訴えたが、答弁の方は「ちゃんとやっています」と言った調子。

● 稲垣 稔（新ク）

地元を抱える当麻地区整備事業、旧フィッシングパーク跡地、道保川自然環境の活用、相模大野駅歩行者デッキの管理などマンネリ的な質問には市の答弁もおざなり。ベテランらしくもっと大事な問題を取り上げてほしい。夕方まで期待を込めて待っていた傍聴者に応えるためにも詰まらない質問は止めてほしい。

● 江成直士（市連）

市長、思わず「江成議員さんにお答え・・・」と「さん」付けで答弁。その江成は傍聴の上高生には「少しでも市政・市議会に関心を深めて頂くようシッカリ議論をしていきたい」と元校長らしく声を掛けていた。障害者の就業促進で、採用上限年齢を30から35才に引き上げたようだが、国の就業率2.1%を上回っているとのこと。中学校の部活動問題では、教員・生徒共にだと思いが、「きつい、きびしい、きりが無い、帰れない」の4Kが言われているとのこと、教育委員会の対応には不安が残る指摘だ。

● 佐藤賢司（新ク）

38人の上溝高生に、「実家は上高の隣で、子どもの頃、屋根のスズメを取りにいった」と語りかけた。生徒はびっくりしただろう。

再生可能エネルギーを強調、ことに市の地勢から水の利用、6割が森林の環境から間伐材の燃料利用を説いた。木質バイオマス利用推進協議会も平成25年から始まる。自治会集会所の設置支援では太陽光発電施設設置を条件にと提案。

● 小田貴久（民・無）

再開発ビル群によるビル風被害の指摘に市は無いと答えたが、小田はアトラボの実例をあげて反論した。公園の水回り管理、スポーツ広場利用者の無断キャンセルなど、市は細心の注意を払うべきだ。特別支援学級の修学旅行費用の一部援助には市長の英断と感謝していた。分かりやすくシ

ッカリした質問であった。

● 米山定克 (公明)

提案型の質問。外国人向けの自治会加入チラシ、安全・安心メール、ご当地ナンバープレート、市内ツアー等数々。本人に言わせると「大変重要」なことだが、評判では「区民会議のテーマ」レベルとの声も。よい指摘は市の図書館の蔵書数は20万冊で政令指定市では最低、年々資料購入費が減少しているとのこと。市は市民の寄贈を募るとか雑誌スポンサーシステムを考えている、などでがっかりだ。

● 山岸一雄 (新ク)

今期最後の一般質問者。「お待たせしました！」の野次が飛んだ。1問目は道州制度の導入についての「決意と見解」をきくこと。つまりは、積極的な話をしてくれとの催促だ。県が発した緊急財政対策の影響と対応を訊ねたのも、結局は市内の県有施設(例えば相模原公園など7施設)の削減要請は受けないことを言わせたかったのか。児童・生徒の全国レベルに劣る体力については、対策実施中とのことだが、何をしているのか聴きたかった。

一般質問総評

★議会最終日が真近いためか、場内の緊張感は無くだらけ気味。議員の議事に関する無関心な態度が目立った。一般質問の方式が、従来と変わらず「一括質問・一括答弁」であり、ましてや事前に市長の答弁の内容が質問者に知らされているのでは、2問目や再質問への興味・関心も起きるわけがない。まさに“朗読会”である。

そのためか、最近また多くなったのが居眠り議員の姿である。本会議場はまさに議員の職場であり、一般企業であれば事務室や工場の現場で居眠りしていることと同じで、決して許されることではない。そういう社員には昇格も昇給もない。

ところが議会には議員の上下関係はなく、ベテランも長老も報酬の差もない。そういった職場で求められるのは議員自身の自覚だけである。ここで提案して置きたいのは、ネット中継される本会議のカメラを質問者だけに向けるのではなく、議員席の様子も時々中継することである。目に余る居眠りや私語に明け暮れる議員の実名を定例会毎に公表することで、議会の実態を有権者に知らせる必要が出てくるかもしれない。

★上溝高校生の見学状況(12月19日)

- ・早朝組の生徒たちは議会開会と同時に居眠りを開始した生徒もいたが30分後には3分の2が眠っていた。筆記していた生徒は見えず、先生一人だけであった。
- ・2組目は熱心に聞いていた生徒は10人ほど。但し筆記した生徒はいなかった。
- ・学校では議会の概要のメモを生徒に配布していたようだが、生徒は予習する余裕が無かったのか。
- ・終了後、数人の生徒の感想を聞いたが、「興味ない」「眠いだけ」「時間潰し」などの答えが返ってきた。学校では感想文を書かせると言っていたが、ぜひそれを読んでみたい。
- ・居眠りする生徒を見た質問議員はどう思ったことだろう。質問に先立っての議員から生徒へのラブコールも利き目がなかったようだ。

傍聴報告の総括

★議論されなかった重要テーマ

代表質問と一般質問を概観して、市の将来の財政に大きな影響を与える大規模事業をテーマに市長と議論することが無かった。一体議員たちは何を考えて議会活動を行っているのだろうか。

- 1) リニア中央新幹線の神奈川中間駅建設
- 2) BRT交通
- 3) 議会基本条例制定
- 4) 大震災廃棄物受け入れ問題

これらのテーマは議会にとってのタブーなのか一般質問の枠外なのか、それとも全然関心がないのか、集中的に議会・議員の見解を知りたい。

★質問時間の「残余時間表示器」設置を

質問者が質問終了時に、近い席の議員仲間が、親切ごかしに掛かった時間か残り時間を書いたメモ用紙を手渡すぐらい見苦しいことはない。他の多くの議会では、全ての議員がハッキリと見える所に、大きな「質問時間の残り」を表示する時計を設置しており、質問者はあと何分質問できるかを教えてもらわなくても知ることができる。以前から、本会はその必要性を議員に提言して来たが一向に実現していない。市民に指摘されると、かえって実行しない相模原市議会だが、これだけは一日も早く設置してほしい。

★「効率」という言葉を知らない議会

代表・一般質問では、合わせて30人程の質問を市長にぶつけているが、その内容が驚くほど共通しているために、市長はおなじ答弁を何回も繰り返している。同じ答弁を何回も聞かされる議員(そして傍聴者)も辛い、何十年もその愚を続けている議会の愚かさを指摘したい。

なぜ、会派間で第1問の質問調整を行い、その一括答弁の後、会派毎に又は個人ごとに再質問や再々質問を行うような工夫が出来ないのか。会派によって質問の微妙な違いが在るとしても、答弁が同じなのは、ご存じの通りである。

2013



The Louvre, Paris ルーヴル博物館 (パリ)

蛇で新年の祝いを
今年もよろしくお願ひします

紀元前2千年のエジプトの都・
アビドスから出土した石碑に描く
太陽神ファルコンに守られた家に眠る
ファラオ(王)の印蛇

【会派略称】
新政クラブ 新ク
日本共産党 共産
民主・新無所属の会 公明党 公明
市民連合 市連
みんなのクラブ みく
無所属 無

常任委員会

(意見と感想)

■ 総務委員会 (12月3日)

面白いことに気づいた。宮下奉機委員長は、議事進行の区切り毎に語る「他に質疑はありませんか」「討論は在りませんか」の度毎に、最大会派・新政クラブ(ここでは本人を含め4人)の方に向かって確認するのだ。公平な運営が望ましい。

議案としては市職員定数増、非常勤特別職の報酬問題に35分と最も長時間を費やし委員全員が質疑を行った。「尖閣諸島の実行支配を推進するための法整備を含めた対応を求める」陳情については、質疑や取り扱いへの発言も無く、ただ笑声だけが印象的だった。各委員の採決法の意見をきいたが結果は「不採択」だった。各会派の態度は次の通り。

継続希望=新政クラブ、市民連合、公明党

採決希望=みんなのクラブ、民主・新無所属の会
共産党

■ 環境経済委員会 (12月4日)

新人3人以外は、ベテラン・超ベテランで構成される委員会だが、主な議案が地球温暖化対策、都市公園条例だけでは発言するまでも無いといった考えか、長友(民・無)、山岸(新ク)、佐藤(新ク)小林(市連)、加藤(公明)らは発言無く、西家(公明)、関根(民・無)の若手に任せられた様子。小野沢(新ク)が津久井クリーンセンターの工事期間(1180日)が長すぎると指摘したのは良。建設業者によれば、会社は工事期間を長くすることで儲けるのだと言う。

■ 民生委員会 (12月5日)

議案内容が国民健康保険の値上げと言う特定分野のため活発な発言があったものの、これ以外は段々と低調になった。現在の国保加入者は21万余りだが、保険料収納率が86%、3万人もとは心配だ。因みに市税の収納率も89%だという。市職員1人当たりの市民数は全国2位との自慢も、結果としてそうした能率の悪さにつながるなら問題だ。陳情については、阿部委員(新ク)の先頭発言につれて各会派も同調、全部が不採択になった。6時近くまで時間を掛けた割に内容が乏しい委員会であった。石川委員(新ク)の医療関係の質疑はさすがにシッカリしていた。

■ 建設委員会 (12月6日)

最も時間を掛けた審議は議案第149号(相模原市水道設置等に関する条例について)。市の同事業に「地方公営企業法」(昭和30年法律第292)を適用するためのもの。久保田義(新ク)桜井(民・無)栄(公明)藤井(共産)大崎(公明)各委員の質疑に対して、市は平成25年4月から独立した会計処理をし、企業会計のメリットを生かした複式簿記を適用、経済性とスピードを重視する事業として、費用の明確化が出来る上、経営責任と意識改革を果たせると答えていた。複式簿記をかつて強調していた公明党委員らは、安心だと言わぬばかりに納得した様子で、採択に賛成した。本議案は、藤井(共産)が反対したものの、他は賛成し可決した。

その他では平成24年度一般会計補正予算で、県道76号補修、二本松交差点円滑化、橋梁長寿命化、鳩川改修、橋本北口道路改良工事など3億円を越える予算に、桜井、落合(民・無)、稲垣(新ク)らから質疑があったが、総員で可決させた。審議の中で、トンネル事故に絡む藤井の質問で、市内には7カ所のトンネルがあり、吊り天井は皆無。週2回の点検中で補修が必要なのは3カ所。現在、補修工事を予定しているとの答弁。

■ 文教委員会 (12月7日)

3件の議案を休憩無しで審査したが、すべて討論もなく、賛成総員で可決した。しかし議案161号の採決には腑に落ちないものがあった。質問を聞くかぎり、溝淵委員(新ク)は賛成しないと思っていたからだ。案件は市立相模湖幼稚園を移転して与瀬保育園との合築園とするもの。新築なのに鉄筋でなく、軽量鉄骨(プレハブ)なのはなぜか、教育施設には許されない、相模原市の恥、反対だ!と激怒していたからだ。保育課長はしどろもどろで弁明に必死だった。

議案173号の平成24年度一般会計補正予算では、溝淵、江成(市連)両委員が学校施設の節電と太陽光発電設備について質問、環境教育として子どもたちが設備の設置効果を具体的に実感できるように発電量や節電を「見える化」にする事が大事と具体的に指摘していた。

■ 議会運営委員会 (12月20日)

ようやく「議会基本条例特別委員会」と「議会だより委員会」の設置が議題として取り上げられた。後者の議論は1月21日に行われる。 ■

【会派略称】

新政クラブ
日本共産党
新ク
共産

民主・新無所属の会
市民連合
市連

みんなのクラブ
公明
公明
みく

無所属
無

報道転載

朝日新聞 平成24年12月20日

相模原 3人目逮捕の中学

いじめ、1年から継続

市教委が調査公表

相模原市の市立中学3年の男子生徒(15)に同学年の少年らが暴力をふるい、3人が逮捕された事件で、同市教委は事件発覚後に学校や男子生徒から聞き取り調査した結果を19日、発表した。1年生の1学期からいじめが繰り返していたと認め、「学校から報告がなく、情報共有の仕方などに問題があった」として謝罪した。

学校から報告なし

この事件で相模原市は今 同学年の少年(15)を傷害容疑で逮捕。この少年と共に、男子生徒を10月17日に、疑で逮捕。この少年と共に、蹴って鼻骨を折ったとして、10月11日に殴ったとして別



市教委は1年生の1学期から男子生徒へのいじめが繰り返していたと判断。今後はいじめの件数や内容などの詳細を調べるという。

また、市教委によると、男子生徒が鼻骨を折られた事件を除くと、この件で少年が逮捕された12月6日まで、学校からは男子生徒の被害の報告はなかった。生徒間のトラブルであり、いじめではないと認識していたため報告しなかった、と学校側は市教委に説明したという。

市教委の白井誠一・教育局長は「学校内の情報共有も、市教委への報告も不足していた。学校で解決が難しいことも、市教委に報告があれば手を打てた」と学校の対応を批判。「学校も市教委も至らぬ点があった。けがをした被害者と保護者におわびしたい」として頭を下げた。

「いじめの実態 正確に把握を」

被害生徒の母親は「限りのなく『いじめ』に近い深刻な暴力でも、反撃したなどの理由で、学校では『トラブル』とされることもあった。調査の中で実態を正確に把握してほしい」と話す。(関根光夫、米沢博樹)

「けがをした生徒と保護者におわびしたい」と謝罪した白井誠一・教育局長(中央)ら相模原市教育委員会の幹部(相模原市中央区)

教育委員会側の用意された報告のあと、委員側の質問が相次いだ。森(民・無)米山(公明)市川(無)栗原(みく)折笠(新ク)江成(市連)溝淵(新ク)中村(民・無)竹腰(共産)の全員が、怒りを込めながら事実確認や学校教育に対する思いを語った。

翌日20日に開催された「議会運営委員会」では、最終的には開催された文教委員会の19日の開催を「非公開」にするかしないかで採めたことに関連、会派・事務局の意見が出た。

- みく＝一旦非公開にしたものを「公開」に変更したのは一事不再議の原則違反だ。
- 公明＝個人的にはOKだが、一事不再議問題は改めて明確にすべき。
- 民・無＝文教委員長が決めたものは仕方ない。
- 事務局＝結果には違法性はない。

【写真左】前列中央は神妙に説明する小泉学校教育部長 左は岡本教育長

この文教委員会は、公開で開催すべきか非公開かで大揉めの結果、「公開」で実施されたが、本会議終了後1時間近く結論を待たされたあげく、傍聴者は帰宅しインターネット中継を視聴した。内容には揉めるほどの秘密性はなかった。

■ 文教委員会 (12月19日)

上に掲げた事件の報告を受ける「市内中学校3年男子の傷害事件について」通常の本会議のあと、所管事務調査のため臨時的文教委員会が開催された。本市にとっても稀な事件だけに竹腰早苗委員長(共産)と中村友成副委員長(民・無)は緊張の極だったろう。傍聴席は本市記者クラブの記者たちで埋まった。冒頭、岡本教育長が事件の概要を短く説明したあと、小泉学校教育部長が教育委員会が調査した報告書の詳細を説明した。

3年間にもわたり男子生徒が「いじめ」を受けてきた経緯と加害生徒の逮捕に至るまでの学校側の行動を説明したが、生徒双方が手を出した場合は「ケンカ」扱いにするなどの極めて責任逃れの説明は聞いていて不愉快であった。続いて行われた事件後の取り組みにも、いまさらとの感が強く納得が行くものはなかった。



